

(1/4)

ERC  
系統班 ← 広報班

# 広報班宛

NO 8

3月27日 23時37分

FAX 送付状

枚数 (表紙含む) 4 枚

ERC プラント班 FAX: [REDACTED]

← 東電内保安院分室 [REDACTED]

件名

(3/4)

※ 本日 20:30~の  
当社会見メモです。

### プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時 平成 23 年 3 月 27 日 (日) 20:30~21:30

場所 本店 101A B 会議室

対応 武藤副社長

原子力運営管理部

原子力設備管理部

広報部

マスコミ 約 60 人 カメラ 7 台

配布資料:

- ・ 福島第一原子力発電所 2 号機タービン建屋地下溜まり水の測定結果について

#### [冒頭概要説明]

- ・ 今回の分析結果について、社内で吟味したところデータに疑義をもったので再測定を行った。
- ・ 当初、コンピューターの自動計測によりヨウ素 134 として判定された 1040keV のピーク (全体の 2%) から放射能濃度を  $2.9 \times 10^9$  と評価。
- ・ 本日、12:50 に同じサンプルを再測定したところ、847keV のピーク (全体の 95%) が検出されなかったこと、また、1040 keV のピークが思ったより減衰していなかったことから、ヨウ素 134 ではなくコバルト 56 である可能性があるかと推定した。
- ・ また、一般的にヨウ素 131 とヨウ素 134 の割合が 1 : 3 程度で出てくるはずが、今回は 2 桁違う数値となっている。

#### [質疑]

- Q. 正しくは全体として 10 の 7 乗くらいの数字になるということか。  
A. その通り。
- Q. コバルト 56 との取り違えはよく起こるのか。  
A. エネルギーはどちらも似た線を出す、全体のバランスをみてきちんと評価する必要があった。
- Q. 25 日の I F 1 データも原子力安全委員会によるとおかしいということだが。  
A. 再度精査して確認したい。
- Q. I-131 と I-134 の割合が 1 : 3 という事実がある中、誤ったデータは 2 桁の違いがあった。社内で疑義を差し込むプロセスがないのか。  
A. 本来 2 桁違うことについて疑義を持つべきであり、コンピューターの計算結果に評価を行うプロセスに問題があったと認識。
- Q. 原子力安全委員会に指摘をされて今回の事が発覚したのか。  
A. 社外からのご指摘もいただいたが、高い数値が出たということから当社自身でも再度評価を行う中で認識をしたということ。時系列については別途確認する。
- Q. 再測定結果はいつ公表するのか。

(3/4)

H23.3.27④議事メモ rev1.doc 最終印刷日時：2011/03/27 23:06:00

A. できるだけ本日中に行いたい。

Q. 今回誤ったサンプルの修正版は本日出るのか。

A. サンプルングするものより早くでることから、本日お知らせしたい。

Q. 先の会見で、武藤副社長は“核種分析の難しさも含めて評価していく必要がある”と発言したが、今回のデータ誤りを意図してのものだったのか。

A. そのような主旨だった。今後はもっとわかりやすくお話ししたい。

Q. 誤った原因は。

A. 核種分析の際に、出てきた数字に対して吟味するプロセスに問題があった。

Q. 問題が起きたのは職員に疲れがたまっているなどが原因なのか。

A. 人間系に関わる部分であり、今後よく調査してまいりたい。

Q. 今回の誤報で1F2格納容器につながる配管に損傷があるかもしれないという可能性が消えたのか。

A. 核分裂をした時に生成される核種でありこれまでお話していたことを覆す内容ではない。しかし、高濃度の放射性物質が検出されたことは誤り。

Q. 線量が高く、普段扱ったことがないレベルで、担当者が不慣れなことからミスが発生したのか。

A. 不明。

Q. 再計測したのはいつか。

A. 本日 12時50分。

Q. 先の会見で再計測していることを認識していたのか。

A. 再評価をする必要があるということは認識していた。

Q. 誤った内容かもしれないと思う内容を誰の権限で発表したのか。

A. 保安を見ている責任者が判断した。吟味が不十分だったことについては大変申し訳なく思う。

Q. 測定結果がなかなか出てこないことについて問題だと考えているが。

A. 周辺の線量についてはMP等で定期的に測定しお知らせしている。また、発電所内もきめ細やかに測定し、作業環境を随時確認しているところ。

Q. プルトニウムの分析について10日かかると聞いたがそれで大丈夫なのか。

A. すでに計測を始めており、近日中にお知らせできると考えている。

Q. 東京電力から国に放射線測定範囲の拡大などを提言しているのか。

A. 当社としては、統合本部からきちんとしたデータを国に提出する責任をおつていると考えている。

(Y/A)

H23.3.27④議事メモ rev1.doc 最終印刷日時：2011/03/27 23:06:00

Q. 全体として10の7乗くらいということは十分高い数値だが、どのように考えているか。

A. 確かに高い数値だが、1F1・3と比べて大きな差がなくなったと認識。2桁下がることは大きい。

Q. 再臨界を起こしていないとのことだったが、炉内の中性子は測れるのか。

A. 測定はできないが、構内のMPに有意な数値は出ていない。

Q. 1F1について、40年を超える延長運転の申請を提出したことについて適切だったと考えているか。

A. 今回の事故とは直接関係ないと考えている。今回の件は未曾有の震災の結果と認識。

以上